

第2班

東アジアの租界とメディア空間

(1) 共同研究員名

研究代表者：大里浩秋

共同研究者：内田青蔵 孫安石 村井寛志

研究協力者：吉川良和 金容範 栗原純 富井正憲

(2) 研究目的

中国・朝鮮における旧日本租界の歴史と現状を様々な角度から調査・研究してきた非文字資料研究センター第1期共同研究の取り組みを継続して行いつつ、戦前の中国・日本・朝鮮に設置された租界（租借地・鉄道附属地を含む）、居留地の比較研究を行う。また、租界が存在した同時期に中国・朝鮮で出版された日本語の新聞・雑誌等を取り上げることで、現地で形成された日本人のメディア空間の実態を明らかにしたい。

具体的には、租界で発行された画報——『良友』画報、『北洋画報』、『キング』、North China Daily Newspaper、『大陸新報』、『大東亜画報』などに掲載されている写真、図像資料の比較と検討を行う。

以上の内容について、関連資料の収集に努めながら、資料の読み合わせと外部の研究者を招いての研究会を適宜開くとともに、年に1、2回、中国か韓国および本学で公開研究会を行うことで、研究成果を学内外に広く伝え、かつ成果報告書を公刊する。

(3) 活動経過

○2011年度

第1回研究会（6月3日）、顔合せ、年間計画確定

第2回研究会（7月1日）、吉川良和報告「中国近代の演劇と図像資料——非文字資料研究への視座」

第3回研究会（7月22日）、李培徳氏（香港大学香港人文社会研究所）報告「カレンダーの広告画から1920～30年代上海タバコ業界の競争を見る」、富井正憲報告「『1930・京城』展覧会についての報告」

第4回研究会（2012年1月18日）、斎藤多喜夫氏（元横浜開港資料館調査研究員）報告「居留地研究の現状と課題」

第1回公開研究会（12月16日）、漢陽大学校東アジア文化研究所との共催

「京城の都市・建築そして生活」

報告1、富井正憲「モダン京城の都市と建築」

報告 2、車惠英氏（漢陽大学校）「植民地近代“京城”の内部探査」

報告 3、金容範「近代京城の都市韓屋とその暮らし」

第 2 回公開研究会（2012 年 2 月 25、26 日）、上海師範大学都市文化研究センター、ソウル市立大学
都市人文研究所との共催

「都市のニューメディアと近代上海」国際シンポジウム、会場：上海師範大学
本学の報告者

富井正憲「映像に描かれたアジアの都市研究——清水宏監督の『京城』」

孫安石「上海での日本人の新聞雑誌の発行——『上海新報』と『上海案内』を事例に」

大里浩秋「日本の租界研究動向について」

村井寛志「戦後上海と香港のメディア状況について」

内田青蔵「R. H. ブラントンによる横浜居留地の下水道整備について」

○2012 年度

第 1 回研究会（7 月 6 日）、栗原純報告「台湾の資料から見た大陸の租界、廈門を中心に」

第 2 回研究会（10 月 5 日）、金容範報告「植民地朝鮮の大地主と農場村——熊本農場の遺跡調査を中心」

第 3 回研究会（2013 年 1 月 11 日）

孫安石報告「上海租界と越界路の設定」

菊池敏夫氏（元神奈川大学付属高校教諭）報告「上海租界と百貨店研究について」

大里浩秋報告「台湾国史館の租界関係資料について」

第 1 回公開研究会（6 月 2 日）、「図像資料が語る近代中国のイメージ」

報告 1、ウィリアム・シャング氏（多摩大学）「イギリス人画家ウィリアム・アレグザンダーが演出した 18 世紀末期の中国」

報告 2、呉孟晋氏（京都国立博物館）「日本人外交官が収集した中国近代絵画——京都国立博物館
須磨コレクションについて」

報告 3、田島奈都子氏（姫路市立美術館）「戦前期の日本製ポスターに見られる中国イメージ」

○2013 年度

第 1 回研究会（5 月 24 日）

村井寛志報告「民国期上海メディアの香港における“転生”——戦中、戦後の『良友』画報から」

孫安石報告「韓国・国民大学中国人文社会研究所のシンポジウム『現代中国知識网络的動力』の報告」

第 2 回研究会（7 月 25 日）

孫安石報告「上海の日本語新聞『上海新報』がみた中国」

橋本雄一氏（東京外国語大学）報告「大連の中国語新聞『泰東日報』と植民地都市のトポス」

木之内誠氏（首都大学東京）報告「大連の歴史地図の作成について」

第 3 回研究会（10 月 18 日）

大里浩秋報告「東亜同文会の資料中の租界関連記事」

孫安石報告「Legendary Sin Cities : Paris, Berlin and Shanghai の上海部分の検討」

第4回研究会（12月18日）

近藤恒弘氏（天津関連資料寄贈者）報告「天津の絵葉書について」

内田青蔵報告「横浜居留地のメインストリート日本大通りの成立過程について——幕末から震災復興期まで」

第1回公開研究会（5月29、30日、6月1日）、ソウル市立大学都市人文学研究所、上海師範大学都市文化研究センターとの共催、「アジア都市研究：回顧と展望」国際シンポジウム、会場：ソウル市立大学国際会議場

本学の報告者

大里浩秋「非文字資料研究センターがめざす研究——付、台湾2機関の租界関連資料」

孫安石「上海の日本語新聞『上海日報』が見た上海と日本」

第3回公開研究会（2014年2月15日）、「東アジアの租界・居留地とメディア」

報告者

大里浩秋「東亜同文会資料中の租界関連情報」

木之内誠氏「大連の歴史地図の作成について」

近藤恒弘氏「天津関係の絵はがきについて」

毛利康秀氏（日本大学）「絵葉書から読み解くハルビンと日本人——ハルビン絵葉書の社会的意味」

彭国躍氏（神奈川大学）「従軍画家たちが描いた戦時中の上海——軍事郵便絵葉書による図版検証」

蘇智良氏（上海師範大学）「上海人文歴史地図の制作構想について」（論文提出）

李衛東氏（江漢大学）「租借と武漢の都市空間・機能の変容」

内田青蔵「横浜居留地の建築について」

斎藤多喜夫氏「横浜の外国人居留地——上海租界との比較を念頭に」（当日の大雪で欠席）

金承郁氏（ソウル市立大学）「上海韓人の国際認識」

金濟正氏（ソウル市立大学）「ソウルの外国人居留地の形成について」

- 第6回全国外国人居留地研究会築地大会（11月2日）、会場：聖路加看護大学に参加、他に、横浜居留地研究会に参加
- 韓国木浦大学開催シンポジウム（11月21、22日）に、内田青蔵、金容範参加
- 韓国漢陽大学開催シンポジウム（2014年3月28、29日）に佐野賢治氏参加

(4) 研究成果

上記(3)に並べたような研究活動を3年間継続してきて、おおむねタイトル「東アジアの租界とメディア空間」に沿った内容で各人の研究報告を行い、それに基づく討論を行って、大分共通認識を得ることが出来たと感じる。また、上海師範大学とソウル市立大学の研究者との3度にわたるシンポジウムを開催、さらに韓国の漢陽大学と研究交流の関係を結び、木浦大学の研究会にも参加することで、国内の研究者に止まらない協力関係がこの間に生まれた。もう1つ、横浜居留地研究会とのつながりで、日本における外国人居留地研究の一角に参加することが出来た。

以上のような研究の蓄積や外とのつながりを目立つ形の成果として公にすることは未だ不十分のままで3年間の活動を終えることになったのは遺憾であるが、それらを次の3年の活動に生かし発展させることで、明らかにしたいと考えている。

(5) 今後の課題と展望

2014年度からは、「中国・朝鮮の旧日本租界——現況調査と現地で発行された出版物の分析」のタイトルで再スタートする。上の(4)で述べたことであるが、これまで積み上げてきたものを確認して、その作業を継続するとともに、租界研究でやり残してきた現況調査や資料の分析を着実に行うことで、租界研究の一応の総まとめになるような成果報告書をまとめて、世に問いたいものだと願っている。